

に多忙であり且つ遠隔の地に居らる爲めに準備に不便であるとの理由に依り御辭退致されましたので乍僭越私より吉

川博士に御願致し種々準備して頂いた次第であります、此段御承認を願ひまして選舉を略したいと思ひます。(拍手)

### 閉 會 の 挨拶

日本鐵鋼協會々長 工學博士 河 村 驍 君

長時間に亘り有益なる研究討議が行はれまして將來電氣爐の設計並に操業上有益なる參考資料を得ましたことは本會の欣幸とする處でありまして熱心に御盡力下さいました處の委員長始め委員御一同に對し厚く感謝の意を表します殊 兎角討議と云ふことは稍々もすれば角が立つものであります但し誠協調的に和氣霽々たる光景を呈しましたことは喜びに堪えぬ處であります、之にて一先電氣製鋼の研究部會を終了すること、致しますが尙今後の電氣爐の進歩の狀況と其成行とを見まして必要ある場合は更に第3回を開くことに致したいと思ひます、尙今年の秋の大會は滿洲で

開くことになつて居りますので滿洲側の準備委員の希望出席者の數等も參酌して研究題目に就きまして理事會に於て評議の上決定することに致します。尙又今回の研究討議の記録は例に依りまして何れ取纏めて印刷前に御回覽に供し訂正して頂くことになると思ひます、何卒宜敷御盡力の程を御願致します、最後に今日特に多大の御盡力を煩はしたる吉川博士に對し御一同と共に拍手を以て感謝の意を表したいと思ひます。(一同拍手)では之にて本日の研究部會を閉會致します。(拍手起る)

#### 講演大會の部

4月3日(火曜日祭日) 午前9時開會  
會場 東京市麴町區丸の内三丁目四番地 帝國鐵道協會々館第一部講演二階、第二部講演三階講堂に於て

本會の大會は回を重ねること十二回毎々有爲の講演數又出席者數の増加する事夥しく今回は一日間の開催にも不拘講演數 20 以上出席申込者亦 402 名と之亦以來の最高記録を示せるは會員諸君の熱心の賜にして同時に周圍が本會に負ふ處多大を來したる所以にして本會の幸慶之れに勝ず茲に最も深厚に同慶の意を表する次第なり。

先づ定刻前より會員參集し開扉を待ち受付にて參考書類(1)出席者名簿、(2)昭和8年度本會々務報告會計報告、(3)服部賞受領者推薦理由書、(4)見學案内書等を受取り各々希望の部に入り着席するや定刻の振鈴と同時に第一部に於ては依博士開會を宣し直ちに講演孤光式電氣爐鋼の窒素並にカーバイドスラッグの脱酸性に就て、吳海軍工廠製鋼部員工學士早矢仕功君を紹介し司會者席に着席、第二部にては水谷博士開會を宣し講演 特殊鋼材の疲勞破壊並に衝擊破壊に於ける「切込み」の影響に就て、日本特殊鋼會社技師玉置正一君を紹介し司會者席に着席す、之を初めとしてプログラムを辿り午前10時25分に至り一、二部共二階講堂に合集し司會者交代河村會長司會の下に八幡製鐵所技師工學士吉川平喜君 平爐作業能率増進の一考察に就て 講演し了つて午前11時15分より本會第19回通常總會(總會記事參照)に移り總會終了後晝食となる。

午後1時講演午後の部開演の振鈴鳴り各々各部室に着席するや第一部室は朝倉博士、松下理事、吉川博士、服部博士、第二部室は石原博士、野田博士、渡邊理事司會の下に夫々プログラムの通り遺洩なく演了し盡し司會者の閉會の辭ありて盛況裡講演會終了す。

以上司會の勞を執られたる各位並に有益なる講演提供者及8時間の長き間熱心に清聴されたる會員諸君へ深甚の謝意を表す。

#### 晩 餐 會 午後6時30分

場所 帝國鐵道協會々館二階食堂に於て

出席者 來賓 追濱航空隊司令 海軍少將 大西次郎閣下  
横須賀鎮守府軍事普及部主任 海軍大佐 古田中 博君  
服部賞受領者 山岡 武君 渡邊 直行君 加藤 孝治君  
永澤 清君 齋藤 新一君

#### 講演者(イロハ順)

今井 弘君	早矢 功君	橋本 宇一君
日司 一君	岡田 俊一君	吉川 平喜君
大谷 光平君	玉置 正一君	武田 循三君
内藤 逸策君	黒河内 敏君	日下 和治君
藤原 唯義君	三浦 三索君	宮下 格之助君
城 員 正 俊君		
野田 鶴雄君	水谷 叔彦君	渡邊 三郎君
吉川 晴十君	松下 長久君	今泉 嘉一君
香村 小録君	俵 國一君	河村 曉君
服部 漸君	石原 寅次郎君	井上 禮之助君
岩瀬 德藏君	戸村 理順君	川上 清弘君
金齋 恭輔君	村岡 武次郎君	朝倉 希一君
藤原 善雄君	島岡 亮太郎君	池田 正二君
石澤 善吉君	今井 文平君	石川 等君
伊太 啓三郎君	花岡 元吉君	ハ・ゴ・セン 三君
加藤 善右衛門君	小田 大造君	桂 辨三君
竹内 敬次君	米田 健三君	田中 雅夫君
村上 竹藏君	梅津 七雄君	永井 雅之助君
山田 泰作君	藪内 周三郎君	山田 良之助君
小林 運重君	小林 子之輔君	福留 富正君
高田 壯吉君	小森 富作君	黃金 井晴一君
淺田 長平君	澤村 宏君	寺島 錦七君
宮口 竹雄君	綠川 五六君	鹽澤 正一君
志村 繁隆君	東 仙太郎君	鈴木 和志理君

定刻の振鈴を會圖に遠近相寄り一堂に會し歡談盡きザテザートコースに入り河村前會長立つて一場の挨拶に次ぎ例に依り卓上演説あり其の速記次の如し。

○河村會長 ちよつと簡単に御挨拶申し上げます、本會の第19回總會、第12回講演大會に當りまして、本會懇親會を兼ね、明日から見學をさして戴きます所の主な方々を御招待申し上げました所、雨天の際又御多用中の所をお繰合せ下さいまして御臨席を得ましたことは本會の光榮とする所であります、尙ほ今日は大變會員の御出席が多うございまして、盛大なる晩餐會を開くことを得ましたことは誠に欣幸に堪へない所でございまして、又本日の招待者の中の服部博士記念賞の受賞者に對しましては、日頃各位の從

事されて居ります事業又は研究事項に對しまして熱誠忠實に御盡力いたされまして、其所屬工場又は研究所の爲に、惹いては國家の爲に甚大なる貢獻を致されたことに對しまして深甚の敬意を表します、又本日の多數の講演者に對しましても、有益なる論文を發表されましたことに對しまして感謝の意を表します、尙ほ本日の總會を以ちまして次の會長、理事の改選並に評議員半數改選を行はれまして、不肖私は今回會長並に理事の任を退任することになりましたが、顧みますと云ふと、私は大正四年に本會の設立の際に編輯員を囑託せられ又中頃常務委員又評議員にも加りまして、大正 12 年の震災後に本會の創立者たる野呂博士が不幸亡くなりました、跡を受けまして理事に選任されました、それから引續きまして今日まで十餘年の間理事に在任いたしまして、内二回會長の榮職を汚しましたのでありますが、此永い間是と言つて取止めて申す程のことも出来なかつたことは遺憾とする所ではありますが、先輩諸君の御指導並に役員諸君及會員御一同の深厚なる御同情と御後援に依りまして、幸に大過なく今日まで経過いたしましたことは誠に感謝の至りであり、茲に諸君に對して厚く御體を申し上げます、尙ほ今回後任と致しましては斯界の權威者たる野田鶴雄博士を煩すことになりました事は、本會に一段の光榮を添へるものとして誠に御同慶に堪へざる次第でござい、勿論同君は今回成立しました日本製鐵株式會社の要職に當つて居られる方であり、御多忙のことはお察し申上げ、誠に御苦勞のこととは存じますが、幸ひ御快諾を得まして本會の爲に喜ばしき極みと存じます、それと同時に本會の役員並に會員御一同に於かれましては、何卒今後一層野田會長に御盡力あつて、益々本會の健全なる發達を見ることに至らむことを希望して止まざる次第であります、茲に杯を擧げまして本會の前途を祝福し、且つ來賓並に會員御一同の健康を祝福いたしたいと存じます。

#### 〔乾杯〕

例に依りまして是から五分間演説をお願いいたしたいと存じます、僭越でござい、承諾を得まして私より指名させて戴きます、先づ新會長の野田博士に一言お願いいたします。

○野田鶴雄君 只今會長の御命令に依りまして私が五分間演説の皮切りを致します、先般圖らずも河村會長より名譽會員に推薦すると云ふ甚だ名譽なるお言葉を伺ひまして感謝いたして居りました所、今日又圖らずも會長の投票を頂戴いたしまして、是は名譽かも存じませぬが、私と致しましては事務員と心得まして犬馬の勞を執る積りでござい、いろいろ御希望もございませうが、御遠慮なく仰つしやつて戴きますれば、私のみならず今回役員に選舉せられました方々、前會長の皆様方と共に努力を致したいと思つてゐる次第でござい、まだ五分間になりませぬからもう少し申述べますが、來賓のお二方には御迷惑かも分りませぬが少々聞いて戴きたいと思つて居ります。

我が國の製鐵事業は甚だ微々たるものであつたのでありますが、歐羅巴戰爭の始まりますと同時に、盛んに各所に製鐵所を起しまして、戦中外國から來ない物に對する製造を致して居つたのでござい、戦さが濟みますと直ちに値段が安くなりました爲に儲からなくなつてしまつた、其中でも幸ひ堅實に残つたものだけ働きまして、それがどンドン續けて居りまして、幸に昨昭和 8 年は我が國で未曾有の鋼材を使つたのでありまして、只今まで私の手許で統計いたして居りますのは鍛鋼其他を入れまして 297 萬噸、先づ 300 萬噸は日本で使つたのであります、其前の記

録は昭和 4 年に 270 萬噸を使ひました、昭和 5 年、6 年には非常な不景氣が参りまして、7 年も同様の不景氣でございましたが、8 年になりまして、まあ 7 年の後半期と申しますか、其頃から軍需工業其他の爲に我が國の鋼材需要は頓に殖えまして、昨年は 297 萬噸、其中製品としまして外國から入れましたのは、先程河村會長からお話がありましたやうに、約 40 萬噸スクラップが 101 萬 2,000 噸ばかり輸入されましたが、此スクラップの輸入が豫想以上に殖えた爲に銜鐵爐の方はそれ程忙しくはなかつたのであります。製品として輸入しました 40 萬噸が何人であるかと申しますと、大體において、英語で申しますがフープとかリボンとか何れもストリップミルで作るべきものが 8 萬 8,000 噸、約 9 萬噸、ブリキが大體 6, 7 萬噸這入つて居るのであります、其外はいろいろ、日本で出来るけれども間に合はないと云ふやうなもの、例へば板とか、條とか云ふものが這入つて参りました。是亦先程河村會長からお話がありましたやうに、ブリキだけは八幡の製鐵所に 5 萬噸の設備を致しまして、從來の 3 萬 6,000 噸と共に、約 11 萬噸は内地で出来る積りになつて居ります、目下の計算は約 9 萬噸になりますが、種類の統一に依りましては 10 萬噸まで作り得ると考へて居ります、まだそれでも足りないであります、民間でも約 2 萬噸位の工場が山口縣の或所に今基礎を作りかけて居ります、残りますのは所謂ストリップミルで、是は昨年の統計を見ますと寸法の違ひだけでも約 200 種でござい、少いものになりますと 1 種でたつた 1 噸、多いのになりますと 6, 7,000 噸位のものもありますが、中には日本鋼管、昭和鋼管でお拵へになる管の材料も這入つて居ります、是はどうしても日本で作らなければならぬものと思ひまして、我々の方で只今其計畫に取掛かりつゝあるのでござい、何分にも種類が多いのでありまして、是は規格統一其他の力に依つて、成るべく品種を減じて、生産費を安く出来るやうに致したいと密かに考へて居る次第であります、そこでストリップミルから考へまして、ちよつと思ひ付いたのであります、亞米利加の統計を見ますと、昨年は、是亦河村會長のお話で、インゴット及鋼鑄物として 2,350 萬噸位を亞米利加で拵へて居ります、それを鋼材に直しますと大雜把に 2,600 萬噸と申して宜いと思ひますが、其 2,000 萬噸の内の約 2 割即ち約 400 萬噸が自動車工業の全部に使はれて居る、我が國の全需要が昨年非常に多くなつたと言つて大に喜んで居ります 297 萬噸よりも超過すること 100 萬噸以上のものが亞米利加の一自動車工業だけに使はれて居ると云ふことは、我々それを考へましてまだまだ我々の努力が足りないと思ひますが、需要が足りないと思ひますか、或は需要を刺戟する力が足りないと思ひますか、今日の御講演に依りまして、極く純理的の結構なる御講演から、一方工場の実際に當りまして 1 噸でも 1 萬噸でも多く同じ設備を以てやらうといふやうな御講演がありまして甚だ結構に存じて居りますが、尙ほ我々は將來需要家にどうしても使はなければならぬやうなもの、日本の需要を殖し、共存共榮で行かなければならぬのではないかと考へて居ります、それには純學理から製造の實地を通じまして、皆様と我々一同共同一致しまして國家の需要に對して進まなければならぬ、是はもつと先の方を考へますと、例へば自動車工業でありますれば、街をうるさく附纏ひます圓タクの如きものまで全部我々が供給します材料に依つて内地で、日本で、國內で拵へて貰ひたいやうに思ふのであります、それにはいろいろ我々も考へて良い物を安くさう云ふ需要家に供給しまし

て、各種の工業を刺激しなければならぬと思ふのであります、我我基礎工業に携つて居りますものは常にそれを忘れてはいかぬと云ふことを私共不斷考へて居るのでございませう、河村會長から御指名がありましたので、つひ餘計なことまで申しましたが、會長にして戴きましたお禮を兼ねて一言平素考へて居りますことを申上げました、お邪魔を致しました。(拍手起る)

○河村會長 それでは次には侯博士にお願いいたします、侯博士は矢張り本會の創立當時から今日まで十有九年の間理事として、又二度の會長として御盡力下つたのでありまして、本會に多大の貢献ある方でありまして、今回理事の改選に際しまして御退任になりましたのでありますが、一言御感想を御伺ひ致したいと思ひます。

○侯博士 只今會長から御紹介を得ましたやうに、歐洲大戰の始まりますちよつと前に本會が創立されました、其最初の議に與りまして、爾來只今お話の通り 19 年に跨つて本會の理事者の末席を汚して居りました、今回退職致しましたのでありますから、何か御挨拶せよとお話がありました。

永々皆様の御援助を得まして有りがたうございませう、厚くお禮を申上げます、本會にては前會長は矢張り理事會、評議員會にも出席をします、又現に前會長の方々には絶えず御出席になり、又重要事項を御相談申上げて居ります、其例を以て見ますと云ふと、私も理事を辭職しましても、本會と縁が切れたと云ふやうな氣が致しませぬ、或は年寄の冷水かも知れませぬが、相變らず本會に出さして貰ひましてお邪魔をしたいと思つて居ります、宜しく又お願いいたします。

ちよつと私の感想を述べさせていただきますが、總ての今日の御國のことが進歩、殊に工業が進歩しましたと同様に、本會の總ての事業が著しく發展し、現に本日のやうに、前例のない、400 名以上の出席者が、滿洲、北海道、日本各地からお集りになつたと云ふことは誠に慶賀する所でありまして、又學術の御講演等に付きましても、全く昔のことを思ふと云ふと隔世の感がある次第であります、又是は一部の方のことではありますが、昨日の研究部會等に付きましても非常に盛んでありまして、殊に研究部會は私などは是非やらなければならぬと云ふことを申立てました一人でありまして、其結果の善し悪しに付きましては絶えず關心を懷いて居るのであります、甚だ、今まで理事者で居ながら、出来ませぬことを、今後望むと云ふことは誠に不埒千萬な話であります、歐米の學會に於きましても、又日本でも現に醫學の方の會ではやつてお出でになることでもあります、現に昨日などのことに付きましても一般の出席者、本會の皆様には或は其場にお出でにならなかつたでありませうが、製鋼を致しますと云ふと、製鋼のお仕舞に鋼中に酸素が残る、其酸素の量を速く識別する方法に付て各種の、現にやつて居られる方法を集めて見た所が、どうもそれに付ての議論が誠に纏り悪かつた、是は御尤もで、私は其會に列席しまして、斯くまでも皆様鋼の中の酸素の抜けた状態に付て非常に御研究、又氣を付けて居らつしやると云ふことに付て誠に愉快に感じたのであります、御承知のやうに新しい今日の製鋼方法の研究報告では、時間に應じて鋼中の化學成分の増減即ち爐のケミカル・ヒストリーを知るには、酸素量を示す曲線を加えてあります、然るに其酸素の測定法はどうしても 1 日、2 日掛らないと出来ない、到底現場では應用し得ない、それを昨日問題にされて居りました、之を現場で其事をやることはむづかしいことで、是

非やらなくちやならぬ、斯う云ふことは研究部會の宿題に致しまして、或は今日相當にさう云ふ目的の爲には本會に使つても宜しいと指定された金があるので、適當な機關を設けて研究問題として、其次の會に其結果を報告するやうになつたら大變宜からうと存じます、どうか、斯う云ふことはなかなかむづかしいことかも知れませぬが、私の理事者の一人として出来得なかつたことを後の理事の方にお願ひして置かしまして、私の感謝の言葉と、希望の一端を申述べて置きます。(拍手起る)

○河村會長 それでは來賓を煩して甚だ失禮でございませう、大西閣下に御願ひします。

○大西次郎君 本日は此席にお招きに預りまして厚くお禮を申上げます、無遠慮な性質で人に招待されますとどんな所へでも譯も分らずに直ぐ出掛けます、行つて見ますと斯道の大家がお集りになつて、まるで話も出来ないやうな状態で、甚だ赤面いたして居るやうな次第であります、門外漢として一二私の鐵、鋼と云ふものに對する素人の感じた所を申上げます。

其一つは、大分前のことでありますが、私は少佐時代に海軍軍令部に奉職しまして、國家總動員と云ふ風なことを調査して居つたことがあるのであります、其頃鐵と云ふものも私の方には非常に關係の深いものでありますので、調査をして見ますと、其原料に於て、今は少し違ふでせうが、到底戦時の要求を充すだけのものが日本には産しない、又外國から輸入するものも戦時になりますと到底平時の如くには行かないのであるからして、何んとかして必要なる量の鐵の原料を國內に貯へて置かぬといけないのだから、其方法として私は斯う云ふことを其頃人に意見を言つて見たのであります、是はまあほんの商賣のことを考へない私の意見であります、戦時に或量の鐵と云ふものがどうしても日本に要るのだ、又私の方に使ひます製鋼に必要なニッケルと云ふものが戦時に這入つて來ないと云ふことになりますと、平時から之を何等かの形に於て國內に貯藏することに致したい、其爲に私は其頃の考へとして、一つ法律を拵へて、大きな家を作つた人は、家の値の 10 分の 1 位で鐵の塀を作らせる、10 萬圓の家を作つた所の人は 1 萬圓の鐵の塀を作らせる、ニッケルも必要ならば花瓶でも火鉢でも強制的にニッケルで作らせる、必要があればさう云ふものを集めれば相當需要を充すのではないかと之を徵發しても直ぐ様生活には困らない、甚だ素人考であります、さう云ふ事を考へたこともあります、それを其道の人々に話すと、それも成程さうだと言つても、誰も實行される人はない、其頃私はさう云ふ考へを持つて居りました、又鋼とニッケルの合金で白銅貨を造つてあるが是は製鋼には使用出来ないから鐵とニッケルの合金で貨幣を造つたら宜からうと云ふことを造幣局に行つて話したことがあります、さう云ふことは生産能力を半分にする、固くなつて到底澤山出来ないからと云ふことでありましたが、まあ素人といふものはさう云ふことを考へて居るものだと思つて居ります。

もう一つは、此頃私の方で鐵に關係のありますのは主として特殊のステールでございませうが、皆さんの御盡力に依つて非常に研究されまして、此頃はそれぞれ必要なる成分のものが殆ど國內で出来ることになりまして、誠に御同慶でありますと共に、皆さんの御盡力に對して感謝をしなければならぬ次第であります、是と同時に私は日本の昔の人の技術と云ふものに對して非常に敬意を拂ふのであります、と申しますのは、私は若い時から少し刀劍と云ふものを、道樂と申しますか、趣味と申しますか、研究をして

居りますが名刀の地金を見ると私なんかもうスチールと思へぬ、何か寶石でも見るやうに思はれるのであります、それは併し無理もないと思ひます、嘗つて鳥飼國次と云ふ名刀を尼ヶ崎の杉原祥造氏が買はれたのですが長さ8寸5分、目方が70匁位のものであります、それが7,000圓であつたと申しますから今の金の10倍もする値段でありますから、我々が見て寶石の如く見えるのも無理がないと思ひます、日本の先人が非常な研究をして、努力をしたことに對しては全く感謝に堪へないと思ひます、巴里に行きますと、あそこアンバリッドの中にナポレオンの墓があり、其處にはナポレオンの佩劍が澤山並べてあります、其劍を見ますと外装は非常に目に綺麗に見えるのであります、中身を見ますと、我々日本刀を見たものゝ目から見ると三文の値打もないやうに思ふのであります、刀、其外鎧であるとか、兜であるとか日本が武器に於て世界獨特の發達をしたと云ふことは誠に神秘的に考へられると同時に、科學の不充分なりし數100年以前に斯の如き立派な物を作り出したる先人の努力に非常に感謝したいと思ふのであります。

次に私は最後に此の鐵に付て甚だ畏多い記憶を持つて居りますが、此際皆さんに御披露したいと思ひます、それは私大正10年から1箇年位シンガポール駐在武官を致して居りました、10年の5月に向ふに着任したのであります、8月に當時東宮殿下であらせられた今上陛下が歐羅巴御巡航を終らせられて、お歸りにお立寄りになりました、一寸餘談であります面白いと思ひますのは、陛下は日本を3月3日にお立ちになつて丁度6ヶ月後の9月の3日にお歸りになつた、シンガポールには3月18日に御立寄りになり、お歸りは8月18日、丁度5ヶ月目にシンガポールにお着きになつたのであります、丁度其頃皆さんの方の石原氏が(柔佛)ジョホールで鐵鑛事業を始めた頃でありまして、海外の日本人の發展の狀況をお目に掛ける爲に鐵山の寫眞等を獻納したのであります、當時シンガポールには領事が缺員中でありまして、官吏としては私が最高のものでございましたので、私が御召艦に伺候いたしまして、無事にお歸りになられたお祝を申し上げ、其寫眞等を獻納いたしました、其時に陛下が之を御覧になりまして、斯う云ふ御下問を賜はつたのであります、鐵山から出る鐵は赤鐵鑛であるか、磁鐵鑛であるか、斯うお尋になつた、私共在留日本人主なる人が並んで居りましたが、一體何んのことを御質問になつたのか其主なる人々にすら分らぬ、私は仕事の關係があるから鐵山を見學もしまして、大體御下問に御奉答が出来たのであります、外の方は誰も御質問の意味さへ分らぬ、赤鐵鑛とか磁鐵鑛とか云ふ意味が分らぬ、當時陛下には御年21歳にわたせられたのであります、如何に陛下が博學聰明であらせられ、又鐵と云ふものに對して御關心をお持ちになつたかと云ふことを拜察を致しまして、誠に恐懼に堪へないと考へるのであります、鐵鋼協會と致しましても誠に有難いお話だと思ひまして、御披露申し上げた次第であります、これで失禮します。(拍手起る)

○河村會長 次は本日の服部賞受賞者の總代として山岡君にお願いします。

○山岡武君 私は八幡製鐵所に居ります山岡でございます、會長から只今御指名を蒙りまして、甚だ失禮であります、此の席を利用いたしまして一言お禮の言葉を申し上げたいと思ふのであります。

本日の神武天皇祭の佳節に當りまして第19回の日本鐵鋼協會

の總會に於て、光榮ある服部賞を戴きまして、我々身に餘る光榮として感謝に堪へない次第であります、是も一に先輩各位並に皆様方の平生の御指導と御鞭撻の賜物として厚くお禮を申し上げる次第であります、今後とも相變らず從來の如く御指導を蒙り、幸にして自分の任務を果し、以て御高恩の萬分の一も報ひたいと思ふのであります、別に是と云ふ程の感想もございませぬが、私は製鐵所に奉職以來唯鑄鐵爐の作業に従事して居りますだけであります、外のことは少しも存じませぬ、それで私が考へて居るとは皆鑄鐵爐に關係のあることでありまして、こゝに居らるゝ皆様方の大部分の方に對しては甚だ興味の薄いことではなからうと思ひますが、ちよつと二つばかり私の感想を述べさせて戴きます。

只今諸君の御承知のやうに八幡製鐵所に於きましては製鋼作業、壓延作業、骸炭製造作業其他に於きまして各種の瓦斯の利用をして居ります、其瓦斯の中で、最近利用の多くなつたのは鑄鐵爐瓦斯と骸炭爐瓦斯でありまして、此瓦斯の利用増加の爲に數年前には鋼材1噸の生産に對して石炭4噸の消費と云ふ割合のものが、今日に於きましては2噸以下になつたと云ふやうな好成绩を示して居ります、此瓦斯の利用が盛んになるに従ひまして事故も増加しました、鑄鐵爐瓦斯は御承知のやうに爆發いたします、又非常に有毒であります、それで斯様な危険なものを取扱ふことには餘程慎重な態度を持つて行かなければ必ず犠牲者を出すのであります、八幡製鐵所に於きましても、他の製鐵工場に於きましても此瓦斯の爲に犠牲者がぼつぼつ出るやうになつたのであります、今まで瓦斯の取扱法と云ふやうなものに對して、組織的にいろいろ研究したこともございませぬが、此瓦斯利用が盛んになるに従つて、此瓦斯取扱法と云ふものをもう少し研究しなくてはならぬのではないかと云ふことを感じて居ります。

それから今一つのことは、是も矢張り鑄鐵爐のお話であります、昔骸炭爐に於きまして唯骸炭の製造をやつて居る時代は非常に生産費が高くありました、それが副産物を利用いたしまして、非常に生産費が低下いたしました、それと同じやうに鑄鐵爐に於きましても只今では此副産物の利用と云ふことが生産費に非常に影響して居ります、ざつと申し上げますと、原料の代價を100と致しましても、それに加工賃が先づ1割位、然るに副産物を利用いたしますと3割位は副産物で償ひます、さう云ふやうで、此副産物の利用と云ふことは非常に大切になつて來ました、其副産物の主なるものは矢張り鑄鐵爐瓦斯、それからセメント用のスラグとか、或はベラス用のスラグ、或はコンクリートに使ふ鑄鐵滓ベラス、さう云ふやうなものであります、此瓦斯を有効に利用するには其鑄鐵爐、工場の近くに瓦斯を使ふ製鋼工場、壓延工場、骸炭工場とか、鑄鐵滓を使ふセメント工場とかがあると云ふことが必要であります、それで鑄鐵爐の位置を決定する場合には、此副産物を有効に利用し得る土地を選定しなくてはならぬと思ひます、さうしてまだ是は餘り申し上げられませぬが、鑄鐵爐の副産物としてコットレル瓦斯清淨法で出る瓦斯灰が相當將來有價値のものになるのではないと思ひます、釜石の製鐵所に於きましてもカリウムのオキサイドをコットレルダストから採つて居ります、そこで私の工場のコットレルダスト中にカリウムのオキサイドが10パーセント位、それにザンクオキサイドが15パーセント位ありまして、是等を何んとか利用したならば宜からうと思つて居ります、昭和5年、6年の頃に非常に不景氣でありまして、其當時茲に居られます野田技監、只今の野田新會長の御發意に依りまし

て製鐵所に防損委員會、損を防ぐと云ふやうな委員會の組織がな  
りまして、さうして出来るだけ遺利回収に努めて居る次第であり  
ます、それでかう云ふ銻鑛爐の副産物の利用を大いにすると云ふ  
ことは矢張り此防損の趣旨に合致するものではないかと思ひま  
す、今日の我が日本の製鐵界は所謂軍需景氣で非常に活氣を呈し  
て居りますが、是が常態であると云ふことは誰しも考へて居りま  
せぬ、矢張り今日かうして斯う云ふやうに、防損と云ふやうなこ  
とに付て怠らず考へて行かなくてはならぬのではないかと思つて  
居る次第であります、誠に不躰な言葉であります、お禮を兼ね  
て感想を申し上げた次第であります。(拍手起る)

○河村會長 次には服部賞の記念資金を供給されました服部博士  
にお願いします。

○服部漸君 私は今日の通常總會並に講演會に幸にして出席する  
ことが出来まして、いろいろ總會に於て會長からの御説明を承り、  
又朝からの講演會に臨みまして、いろいろ御発表になつた研究の  
結果を拜聴いたしまして、年々此日本鐵鋼協會が隆盛になると云  
ふことを深く感じまして大いに感謝の意を表したいと存するので  
あります、で斯く年毎に此鐵鋼協會が盛んになつて行きます其基  
礎を固めて行くに云ふこと、又月々発行せられます所の雑誌の  
内容が益々世と共に進み、愈々充實するやうになつたと云ふこと  
に就きまして、一言現會長の河村博士並に其他の理事、又編輯員の  
方々に對して不斷の努力に深くお禮を申し上げたいと存じます、殊  
に河村會長は今回の改選期を以て去られますが、今日まで盡され  
た所は我々鐵鋼協會の會員として深くお禮を申し上げなければなら  
ぬと存するのであります、尚ほ序に一言ちよつと感想を添へて申  
上げたいと存じますが、我が日本の工業が近頃著しく發達いたし  
まして、其製造する所の量に於ても、又質に於ても、又經濟的にも  
凡ゆる主要工業製産品と云ふものが歐米の先輩諸國を脅しつゝ  
あると云ふことは新聞などでも既に皆様の御承知の所でありまし  
て、是は甚だ私は愉快に感ずるのであります、畢竟するに此事と  
云ふものは明治初年以來約 60 年間と云ふ長い年月を費して、最  
も困難なる創立、創業に力を入れた其力と云ふものは皆是がラテ  
ント・ホートとして 60 年の間働いて、漸く今日其基礎が固まり  
掛けて、蒔かれた所の種子が一齊に芽を吹き始めて、お互に相援  
け相助けられて今日のやうな盛況を呈するに至つたものと私は信  
ずるのであります、是は一般工業のことでございますが、私共の  
關係する製鐵事業と云ふことに於きましても、只今申しましたこ  
とと同様なことでありまして言葉にも盡せぬ從來の困難な時代を  
經て、今日漸く芽を出すやうになつたと云ふことは誠に御同慶の  
至りに堪へないのであります、それで今日の御講演を拜聴し、又  
今日服部賞を受けられた方々のことなどを考へて見ますと云ふ  
と、一般工業の發達と各専門々に理論と實地と云ふものが共に  
發達をして來た結果であると私は深く感ずるのであります、今日  
受賞せられた方々は永年御研究の努力と永年此實地の經驗が積ん  
で初めて貴き此賞を結ばれた次第でありまして私は衷心御よろこ  
びを申し上げたいと存するのでありますと同時に是非とも今後に於  
きましても引續いて此理論と實地が益々研究せられる様に御努力  
を願ひたいと存するのであります、尚ほそれに付きまして私の今  
後此鐵鋼協會に對して希望する所は、從來既にございます所の此  
機關を益々隆盛にして、もつともつと此機關を擴大して、其獎勵  
で以て益々多數の研究者を出し實地經驗者が續出されるやうに努  
力されむことを希望して止まないであります、幸に新會長とし

て私共が今日迎へました所の野田博士は是等の點に付きまして最  
も應はしい凡ゆる資格を有せらるゝものと私は信じて、鐵鋼  
協會の爲に深く喜ぶものでございます、どうぞ今後に於きまし  
ても一層若い人達の研究なり、實地と云ふことに向つて獎勵をして  
戴いて此上とも御盡力あらむことを希望いたす次第であります、  
尚ほ此機會に於きまして先刻申し上げたやうな意味に於きまして鐵  
鋼協會に對して非常に御盡力下さいました先輩諸君、即ち野呂博  
士を初め、其外の方々、又製鐵所其他のお方で斯道の爲盡されて  
今日の此隆盛を見られずして故人になられた方々に對して私は深  
甚の敬意を拂ひたいと存するのであります、只今會長の御指名で  
ございましたから、一言感想を述べ私の希望を申し上げた次第であ  
ります。(拍手起る)

○河村會長 次は今泉博士にお願いいたします。

○今泉嘉一郎君 御指名でございまして、ちよつと所感を述べ  
させていただきます。

御承知の如く我が國の製鐵事業と云ふものは、今日まで極めて  
順調に發達を遂げて居るものでございます、事業の經營上には、過  
去數 10 年の間に互り、いろいろな浮沈があつたのでございませ  
が、多くは是は商賣として見た浮沈盛衰でありまして、事業其物  
の盛衰、即ち生産の趨勢は概して昂進を續けて居る。即ち實際に  
鋼生産額の上に非常な打撃を來したと云ふが如きは、大正 10 年  
若くは昭和 4 年が僅かに見た例でありまして、其他に於ては年々  
生産を増加しつゝある情勢でありました、而して私は此情勢は當  
分改まらず、今後と雖も相當永久に繼續するものと考へて居るも  
のであります、どうしてさう言ふかと云ふと、私と致しましては  
茲に三つの重要な原因があると思ふのでありまして、只今夫を  
述べたいと存じます。

第一、我が國の經濟關係であります、我が國の經濟と云ふ方面か  
ら見ますと云ふと、製鐵事業の興廢と云ふことが實に容易ならざ  
る關係を持つて居る、其極く適切な例を申し上げますと、大正元年か  
ら昨年まで滿 22 年の間に於て、我が國の鐵材不足の爲に海外か  
ら輸入した銑鐵が 5 億圓、鋼材が 25 億圓、之に加ふるに機械の形  
に於て輸入された鐵の部分だけを推定いたしまして、約 10 億圓  
と云ふものがございまして、さう致しますと此の合計 40 億圓と云  
ふ金が、此 22 年の間に鐵の爲に外國に支拂はれましたことにな  
るのであります。而して其間に我が日本が黙つて鐵を作らなかつ  
たかと云ふと、恐らく此金額以上の鐵を自分でも作つて居つたの  
であります、鋼材と鑄鐵とで約 60 億圓位の物は作つたと見られ  
るのであります、勿論之に對して海外から屑鐵と鐵鑛とを取つて  
原料としたのであります、此の屑鐵と鐵鑛の輸入の合計は大  
略 5 億圓はありませう、斯く 5 億の原料を輸入して原料の不足を  
補いながら、兎も角我が國は 60 億圓の鐵材を作つて、それが足り  
なくて尚ほ 40 億圓の鐵(銑鐵及鋼材)を海外から輸入したので  
あります。若し自分で鐵を造らず總て輸入するとした場合には僅  
に 22 年の間に約 100 億圓と云ふ金を外國に支拂はなければなら  
なかつた事で國家の經濟に如何に重大なる關係を生ずるかと云ふ  
ことを考へましたならば、如何に無頓着の人でも決して此事業を  
等閑に附することの出來ないと云ふことは明かであるのでありま  
す、斯う云ふことが今後と雖も製鐵事業に勉めなければならぬと  
云ふ第一の原因であります。

第二は私は我々日本人の技術及經營上の才能が既に相當に練達  
いたしまして、事業將來の發達に必要な人間の力と云ふもの

が、充分に準備されて居る事であると思ふのであります。元來今日まで我が國人が此事業の發達の爲に努力したことは實に容易ならぬことであります、それは事業家及學者即ち我が鐵鋼協會の會員の方々、是等の人々がどの位骨折つて來たか又現に骨を折つて居るか分らない、世間の他の事業界方面にも立派な例が澤山ございませうが、私は我が製鐵事業の關係者、即ち唯今申し上げた我が協會の會員諸君の如く常住眞面目に緊張して居る事は他の如何なる會に較べても私は決して、自分が自分の關係の會のことを言ふのはおかしいのですが、餘り多くひけを取らぬと思ふのであります、先づ是だけの人的要素が出來て居りまして外國人のする位の事が出來ぬと云ふことはない筈であらうと思ひます、2週間ばかり前ですが、獨逸大使から一緒に食事をしたいからと云ふ御招きで参りましたら、新しく獨逸から來た二三の學者の外に、二三の日本人の方も居られましたが、一緒に招かれた本多光太郎博士を主賓と致しまして、今度獨逸のゲッテンゲン大學から本多博士に贈られて來た名譽博士のディープロームを大使から傳達することになつて、其式が擧げられました、其時の大使の演説に、我々獨逸人は長い間日本人と交際した、其間日本は我が國の科學、哲學其他に付て學んだことが少くなかつたであらう、併し近年に於ける日本の進歩は何れの方面に就ても唯驚くばかりである、殊に日本の醫學、日本の製鐵學に付ては、我々は却つて日本に學ばなければならぬと言はれた、大使は又、數年前我が國で開いた萬國工業會議に依て、我が國の工業の状態に新たな認識を得た事や、本多博士などが始終發表されつゝある研究の報告などに依て獨逸人が我が國の學術に非常の敬意を拂ふに至つた事などを述べられたが、夫等は決して單なる外交的の言葉ではないやうに、私は聞いて居りました。兎も角私は茲に人の力と云ふことが我が國の製鐵事業を益々發達せしむる第二の原因として我が國に立派に存在して居ることを申上げる次第であります。

第三は我が國の國情と云ふことが將來と雖も尙ほ我が製鐵事業の相當なる發達を要求して居ると信ずるのであります、それはどう云ふことであるかと云ふと、先程河村博士の表で掲げられたあの表を御覽になつても能く分ります通り、近年に於て世界の製鐵事業が開關以來の生産レコードを出したのは1929年、即ち昭和4年でございませう、昭和4年には日本では金解禁の噂で非常な恐慌を來して居つた場合であります、世界の製鐵事業の生産額としては其年がレコードを揚げました。即ち全世界の合計でスチール・インゴットが1億1,900萬噸出來ました。是は開關以來のレコードであつた。然るに3年経つて昭和7年になりましてどうであるかと云ふと、是は又殆ど未曾有の不況に世界の製鐵業が陥つてしまつた、即ちスチール・インゴットの生産額が4年の半分以下の5,000萬噸になつてしまつた、それで内容を見ますと云ふと、亞米利加は昭和4年に對して、昭和7年には其4分の1にも達せず24パーセントと云ふやうな下落の仕方、獨逸はどうであるかといふと、是亦3分の1になつてしまつたのであります、其外佛蘭西にしる、英吉利にしる皆約半分に下つてしまつた。兎に角非常な事である、是は大正元年以來に於て大正10年を除いて一番低い記録であります。斯やうに僅か4年の間に最高と最低とが出現した譯であります、最低の翌年たる昭和8年に至つて少し回復いたしました、併しまだまだ酷い、1929年、即ち昭和4年に比して米國も獨逸もまだ半分、佛國と英國とが漸く7割位の程度である、先進諸國が皆斯かる場合であるに反し獨り露西亞と

日本とのみが増加しました。即ち昨昭和8年は露西亞は昭和4年に比して135パーセントになつて居り、日本はどうであるかと云ふと、私の推算では140パーセントに相當するのであります。斯やうに露國と日本とのみ世界の不景氣に拘らず、依然として伸びて行くのはどう云ふ譯でありませうか、夫は兩國とも自國の需用を唯一の販路とする結果である、然るに他の先進國は輸出に重きを置く關係上、今日のやうな世界の不況となりましては輸出先の國が買はないやうになりました。其買はない理由の一つは不況の爲に買へないのと、一つは其國自身が、露國や日本のやうに自給自足をした結果であります、兎に角買はないから直ちに困るのであります。斯う云ふ原因で輸出國の事業は衰微しましたが、此取返へしは容易でないのであります、然るに我國は自給自足をするだけでも相當の仕事がまだある、丁度只今野田さんのお話のやうに今日でも我が國ではまだまだ自給自足を完全には出來きらないのであります、我が國では御承知の通り過去20年を顧みますと、10年の間に需要が2倍宛進んだと云ふことになつて居りませう、作る方はどうかと云ふと、過去20年に於て10年に3倍宛になつて居りませう、即ち一方の需要が2倍づゝ進んで、我々は之を追駈けて3倍づゝ作つた爲に、今日では稍々近附いて來て居るだけのことであります、而して今後の見込はどうであるかと申しますと、今後假りに輸出などは出來ないものと考へて見ましても、兎に角10年に2倍する所の國家の需要に追附いて行くにはそれだけ生産額も増さなければならぬと云ふのが我が國情であります、併し私は今後も是迄のやうに矢張り10年に需用が2倍するとは考へませぬ、若し左やうに増して行くと思へば近き將來にも非常に大きな數字になります、併ながら今後10年毎に5割位の需用増加は考へて宜からうと思ふ、さうすると今後10年に、即ち昭和19年に於て今日の330萬噸にプラス50パーセントとして500萬噸のスチール・インゴットを作らなければならぬと云ふことになる、それは滿洲などに將來供給する數量を見込まなくとも5割位ものは黙つて居つて、内地だけで10年間に増進する數量であらうと思ふ、さう云ふことでありますから、以上申上げました三つの原因に依りましても、私は日本の製鐵事業と云ふものは容易に衰微すべきものではなく、今後尙ほ益々多望の境地に置かれるものであると云ふことを考へた所以であります、詰らぬ事ながら御参考に供したいと思ひます。(拍手起る)

○河村會長 私は今夕會の始まりに二つの豫定を立てました、一つは先程大西閣下からも鐵鋼協會は大邊パンクチュアルである、6時の招待で6時に來て見ると既に皆んな席に着いて居つたと云ふお褒めに預りましたが、パンクチュアルに6時から始め、8時に5分間演説を終りたい、斯う云ふ豫定をして居つたのであります、一つは東京のみならず或は仙臺、北海道、關西地方、九州地方の代表者のお方に1人づゝダブル・スピーチをお願いしたい、斯う云ふ二つの豫定をして居りました所が、今日に8時を過ぎました、此上又5分間お願いいたしますと益々パンクチュアルの豫定が失はれるのでありますから遺憾ながら割愛して5分間演説は是で終りたいと思ひます、最後に今夕の來賓たる古田中大佐殿より明日の見學に付ての御説明、御注意があるさうです、之を伺つて會を終りたいと思ひます、御紹介申し上げます。

○古田中博君 私には横須賀の鎮守府で軍事普及の係を致して居ります古田中でございます、今夕御盛宴にお招きを戴きまして誠に有りがたうございました、横須賀軍港を見にお出でになります方

は年々殖えまして、昨年の如きは1年間に俄然28万人に達しました、鎌倉の大佛さんも大分驚いて居られるだらうと思ひます、此多い中に於て、先般御會から山田さんと廣瀬さんが態々お打合せにお出でになりまして、御熱心振を發揮されまして私共は大變感激したのであります、就いては出来るだけの御案内を申し上げますと思ひまして、プランを立てましたことを申し上げます。

明日、鐵のレールの上を鐵の列車で午前9時に鐵の港の横須賀にお着きになりますと、鐵色をした我々がお出迎をしまして、さうして何か若干私が御挨拶を申し上げ、早速鐵で作つたランチにお乗せ申上げて、航空隊に先づ御案内を申し上げます、航空隊のことに付きましては茲に司令の大西少將がお出でになりますので、借越でありますから私は差控へることに致します、同隊の御見學後、其處で晝御飯を皆さんの御希望に依りまして、私の方で準備だけを……私の方の馳走ではございませぬ、皆さんの御辨當ださうであります、準備だけはして11時半に差上げることになつて居ります、午後零時15分に航空隊をお出でになりまして、程近くにありまして第4潜水隊、此潜水隊はロの54、55、56と云ふ3隻であります、御人数が多いので3隻に分乗をして御見學を願ふプランにして居ります、此潜水艦は申上げるまでもなく御承知のことと思ひますが、我が國の最も特色とする艦でありまして、殊に英米の者共の大分脅威的となつて居ると噂される潜水艦であります、明日お出でになるのがそれだと云ふ意味ぢやありませぬ、どうぞしつかりと御覽を願ひたいと思ひます、潜水隊の御見學が終りますと暫く海上をランチで行きまして港の沖合に軍艦伊勢、只今横須賀に居ります最大の軍艦であります、是より大きいの見ようと仰つしやつても實は長門、陸奥も居ないのであります、約3萬噸の艦であります、之に御案内を申し上げます、伊勢を御覽になりまして約1時間ですが、それから又ランチで海軍工廠に御上陸になつて此工廠をぞつと御覽になります、此海軍工廠は私共は一般工業の方は存じませぬが、海軍と致しましては最も由緒の古いものでありまして、軍艦を造るのは海軍工廠であります、此海軍工廠の先身は横須賀造船所であります、是は慶應年間に出來た我々としては最も古いものゝやうに存じて居ります、佛蘭西の海軍の技師のウエルナーと云ふのを非常に高い年給で、約1萬弗だと思ひますが、呼んで來まして、當時幕府は國事多端の際にも拘らず、此造船所の爲に年々100萬金と云ふ豫算を組んで居つたやうであります、此工廠の先身である製鐵所、此處を約1時間近くの間で御覽を願つて、大體4時10分に御見學を終りまして、4時40分の列車でお歸りになる、斯う云ふ順序に致して居ります、此見學の間に御承知でありませぬが、寫眞撮影とそれからスケッチをすることは、是は法律で具合が悪いことになつて居りますから御遠慮を願ひたいのであります、それから雨が降れば傘は仕方ありませんが、ステッキをお持ちになることは、是は一向法律には關係ありませんが、軍艦の中をお歩きになるのに却つてお邪魔ぢやないかと思ひます、軍艦のハンドレールを手で摺りながら大分上り下り致しますのでお邪魔ではないかと思ひます、勿論お持ちになつてもお預りは致します、見學に付きましては私の方で途中ずつと御案内をしますが、行き先々ではそれぞれ先方の者が詳しく御案内を申し上げますと云ふことになつて居ります。

最後にちよつと申し上げたいことは生意氣のやうであります、今日見學にお出でになる方が年々殖えると共に、年々緊張味を加へてお出でになります、殊に青年諸君の如きは非常に大きな眼を以て見て行かれる、中には6割、7割で負けはせぬか心配で來たと云ふ憂國の士もあります、御尤もな御心配であります、詰り海軍の戦闘力と云ふものに一つのフォーミュラがありまして、マティリアルの力、機力の力、或は人の力、或は術の力と申すか、機力と人力との相乗積、即ちプロダクトである、それがイクラール海軍戦闘力であると云ふことが戦術の1頁に教へる所があります、此式を見ますならば海軍が如何に人的養成に努めて居るかと思ふこと、もう一つ物質の力をいやが上に上げつゝあるかと云ふことが分るのであります、其物質の力の中の方面は勿論最

大の部分が鐵でありまして、私共は海を生命線としますと共に鐵を生命線として居るのであります、どうか鐵が如何なるやうに實用化されて居るか、又人が如何なる状態にありますか、さう云ふ邊の御觀察を1時間と雖お願ひしたいと思ひます、尚ほ友人のお方、會社のお方、家族のお方、どう云ふ方でも横須賀を御覽になる方は私の方で取扱つて居りますが、極端に申し上げますと一人でも結構なんであります、規則は10日前とか何んとかありますがそんなことを今言つては居りませぬ、突然お出でになつても出来る限り御案内申し上げます、さう云ふ際には葉書1本私共の方にお出し下さいますれば御相談申し上げます、出来る限りの御便宜を差上げたいと存じて居ります、軍港のことなんかにつきまして申し上げたいことがあります、明日もありますので、言はぬが花だと思ひまして、是で失禮いたします。(拍手起る)

○河村會長 本日午前午後互つて有益なる御講演を伺ひ、其上に本夕は御來賓を初め皆さんの有益なる御感想談を伺ひまして、誠に會員一同の爲に利益する所が非常に多大なるものがあつたと存じます、今夕御話し下さいました諸君に對しましても厚くお禮を申し上げます、尚ほ先程服部博士より私の在任中の努力に對して過分のお言葉がありまして、敢へて當所ではありませぬが、お言葉に對しまして厚くお禮申上げます、それでは豫定の時刻も過ぎましたので、之を以て本日の晚餐會を終了いたすことに致します。(拍手起る)

#### 4月4日(水曜日)見學

##### 第1班 海軍技術研究所及び鐵道省大宮工場

###### 午前 海軍技術研究所

昨日來の雨止みて一天拭ふが如き快晴となつた、午前9時研究所に集る者50餘名、休憩所に於て當所の沿革並に研究項目に就て説明のあつた後3班に別れ案内された、當所は大正12年4月1日海軍造船廠、海軍艦型試験所及び海軍航空機試験所を廢し海軍技術研究所として築地に創設されたものであるが昭和5年9月9日現在の地に移轉したのである、組織は理學研究部、化學研究部、電氣研究部、造船研究部の4研究部と庶務、會計、醫務の3課より成る。

各研究室に於て夫々専門の係員より詳細の説明あり、尙實驗を行はれ一同裨益する處多大であつた、午前11時見學終了、各自大宮へ向ふ。

###### 午後 鐵道省大宮工場

見學人員35名、赤沼技師より當工場の沿革、事業、設備其他に就いて概略の説明あり4班に別れ、鑄物、製罐、仕上、組立、鍛冶、塗工等の諸工場並に参考品陳列所を見學した。

當工場は明治27年日本鐵道株式會社の創設に係り同37年國有となり今日に至つたのである、敷地87,000坪餘、建物22,000坪、従業員數、工場長以下2,300名で、事業は機關車、客車、貨車の修繕を主とし其他車輛の製造、改造、一般鐵道用品の製作、設計等を行ふに於て、當工場が能率増進、福利増進等に如何に努力されて居るかに對し一同大に感服した。

##### 第2班 横須賀軍港見學(追濱航空隊、潜水艦、戰艦伊勢、横須賀海軍工廠)

數日來天候不良であつたが見學當日は午前中見事な日本晴、見學總人員約170名、午前9時追濱波止場に集合、軍港見學の故でもあるか集合時間が厳守されたことは喜ばしい。先づ古田中大佐から見學に關する注意あり、それより小汽艇に乗じて追濱航空隊見學、大西少將(隊長)自ら案内せられ水陸兩機の高等飛行を見學して同所に於て晝食、午後は呂號潜水艦見學、内部は空席のない迄に諸機械のあるのに驚くと同時にこの中に働く將士に今更ら乍ら敬意と感謝を表した。次に戰艦伊勢の上甲板を見學、最後に海軍工廠鑄物工場を武智造機少佐の案内にて見學し全會員は多大の感銘を受けて午後4時過ぎ無事見學を終了した。

午前の好天候に引換へ午後は細雨降りしきり海上の往復に相當困難を感じたが、會員は終始熱心に見學せられ、尙海軍當局の御熱心なる案内には感謝に堪へない。又軍事普及部古田中大佐以下諸員の御好意に對しても深甚の感謝の意を表するものである。